

全国結核予防婦人会だより

発行●公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12 TEL 03-3292-9288

2017.7

No.120



2017年度
複十字シール圖案
デザイン:安野光雅画伯

健康の輪



編集●全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局(結核予防会内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

第21回結核予防関係婦人団体中央講習会開催



開講式にてお言葉を述べられる秋篠宮妃殿下

平成29年2月13日・14日の2日間、東京都千代田区のKKRホテル東京において秋篠宮妃殿下よりお言葉を賜り、第21回結核予防関係婦人団体中央講習会が開催されました。

全国各地より97名が参加し、結核、COPD、受動喫煙などの貴重な講演や班別討議が行われ、充実した内容の2日間となりました。(秋篠宮妃殿下のお言葉は本誌2ページに記載)

第13回ヘルシー・ソサエティ賞を工藤翔二結核予防会理事長が受賞!

結核予防会は1963年から54年間にわたり同会結核研究所で国際結核研修を行い、97カ国から2,300名以上が受講され、世界的にも高い評価を受けています。この功績について第13回ヘルシー・ソサエティ賞の教育者部門に、本会木下幸子会長より昨年11月4日に推薦させていただきましたところ結核予防会工藤翔二理事長が受賞することができました。

本年3月16日、ザ・プリンスパークタワー東京において授賞式が行われ、工藤理事長と共に木下会長が出席いたしましたのでご報告いたします。

なお、この推薦には参議院議員の武見敬三先生と今村聡日本医師会副会長のご推薦をいただきました。



授賞式での工藤理事長(中央)と木下婦人会長(右)

第二十一回結核予防関係婦人団体中央講習会 おことば

平成二十九年二月十三日(月)

本日、「第二十一回結核予防関係婦人団体中央講習会」の開講式にあたり、全国からお集まりの皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。

今年、全国結核予防婦人団体連絡協議会は、創立四十周年を迎えられました。かつて国民病と恐れられていた結核は、皆さまをはじめ、多くの方々のたゆまぬ努力によって、著しく減少しました。これまで、人々の結核予防に対する知識を高め、行政と地域の人々の架け橋となつてこられた皆さまに対して、敬意を表します。

日本は、欧米諸国と比較いたしますと、依然として結核罹患率が高い中蔓延国に位置しています。結核罹患者の約六割が七十歳以上で、二十代の結核患者の約半分が外国生まれという課題もあります。また、世界保健機構によれば、世界では一年間に一千万人以上が結核を発病し、約一八〇万人が命を落としており、世界の結核を減らすことは、国内の結核を減らすためにも欠かせない、大切な課題でありましょう。

今年、結核予防に関わる国際的な会合が、日本で開催されます。来月は東京で、「第六回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会」が開催され、この国際会議には結核予防婦人会も参加され、発表されると伺っております。更に、今年の八月に開かれる、創立四十周年記念「世界の婦人会議」においては、「女性は家族と地域の健康の担い手」をテーマに掲げて、今までの成果を発表されるお聞きしました。こうした機会を通じ、世界から集う多くの人々に、皆様の意義深い活動が伝わることを願っております。

二日間にわたるこの度の中央講習会では、結核や慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの講演や班別討議が行われます。講習会で得られる新たな知識とともに、皆さまの貴重な経験や情報の交流が、今後結核予防をはじめとする健康作りの活動へとつながっていくことを、期待しております。

これからも、皆様がご自身の健康を大切にされながら、婦人会の活動を通じて、地域の健康を守るために活躍され、広く人々のために力を尽くされますことを心より願ひ、開講式に寄せる言葉といたします。

写真で振り返る

第21回 結核予防関係



全国各地の婦人会から97名受講されました



結核研究所 森 亨名誉所長に「アジアと世界の結核を減らさなければ、日本の結核は減らない」と「ワクチンで子どもを守ろう—BCG接種—」についてご講演いただきました



複十字病院呼吸ケアリハビリセンター部長(長崎大学名誉教授)千住 秀明先生に「COPDは予防と治療が可能な病気—早期発見、早期治療の重要性—」についてご講演いただきました



中央内科クリニック 院長村松 弘康先生に「オリンピックに向けたタバコ対策~屋内完全禁煙の必要性~」についてご講演いただきました

中央講習会スケジュール

テーマ：自分の健康は自分で作る ～国民運動への展開～

● 第1日 2月13日(月) ●		● 第2日 2月14日(火) ●	
13:10 開講式	13:10～13:40	8:00 講演⑤(30分)	8:00～8:30
主催者挨拶 結核予防婦人会 会長		⑤『複十字シール募金運動の意義』	
主催者挨拶 結核予防会 理事長		公益財団法人結核予防会 理事	小林 典子
総裁おことば 秋篠宮妃殿下		8:30 講演⑥(30分)	8:30～9:00
来賓挨拶 厚生労働省		⑥『結核予防婦人会活動について』	
健康の歌斉唱		東京家政学院大学	
13:50 写真撮影	13:50～14:05	現代生活学部 健康栄養学科 教授	松田 正己
14:15 講演①(40分)	14:15～14:55	9:10 班別討議⑦(140分)	9:10～11:30
①『アジアと世界の結核を減らさなければ、日本の結核は減らない』		《考える・まとめる ー計画を立てるー》	
公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨		⑦『クロスロードで考える婦人会活動の活性化』	
15:05 講演②(30分)	15:05～15:35	慶應義塾大学商学部 教授 博士(文学) 吉川 肇子	
②『ワクチンで子どもを守ろう ーBCG接種ー』		全体発表会・総評	
公益財団法人結核予防会結核研究所 名誉所長 森 亨		11:40 婦人会の皆様へ(20分)	11:40～12:00
15:45 講演③(40分)	15:45～16:25	12:00 終講式	12:00～12:20
③『COPDは予防と治療が可能な病気 ー早期発見、早期治療の重要性ー』		主催者挨拶 結核予防婦人会 会長	
公益財団法人結核予防会複十字病院呼吸ケアリハビリセンター部長		主催者挨拶 結核予防会 理事長	
(長崎大学名誉教授)	千住 秀明	修了証・バッジ授与	
16:35 講演④(40分)	16:35～17:15	受講生代表挨拶	
④『オリンピックに向けたタバコ対策 ～屋内完全禁煙の必要性～』		蛍の光斉唱	
中央内科クリニック 院長 村松 弘康			

婦人団体中央講習会 (2月13日・14日 KKRホテル東京)



結核予防会小林 典子理事に複十字シール募金運動の意義についてご講演いただきました



東京家政学院大学 現代生活学部 健康栄養学科 松田 正己教授に、結核予防婦人会活動のアンケート調査結果の概要についてご講演いただきました



班別討議オリエンテーション 慶應義塾大学商学部 吉川 肇子 教授



班ごとに分かれて話し合っている様子



終講式では受講生代表として大阪エイフボランティアネットワーク 上田 フサ様より謝辞をいただきました

日本からカンボジア、タイへ広がる婦人会活動～APRC2017のシンポジウムより～

結核予防会総裁 秋篠宮紀子

今年の3月、東京で「第6回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術集会（APRC2017）」が開催され、結核やその他の肺疾患について、様々なシンポジウム、講演、学術発表などがおこなわれました。結核予防婦人会は、シンポジウム「アジア太平洋地域における婦人会活動」を主催者（国際結核肺疾患予防連合および結核予防会）と共同企画しました。このシンポジウムの概要については、結核予防会の小林典子・募金推進部長の報告が7頁に掲載されています。私も、開会式や婦人会のシンポジウムに出席し、貴重なお話を伺うことができました。日本の結核予防婦人会とタイの女性団体のご発表から感じたことをスライドと合わせてご紹介します。

地域の婦人会による結核予防活動～1950年から現在まで～

結核予防婦人会の木下会長は、1950年に長野県の小学校で結核の集団感染が起きたことから、お母さん方が感染を広げないために力を合わせたことなどをお話しになりました。図1は、木下会長が使われたスライドの中の一枚です。

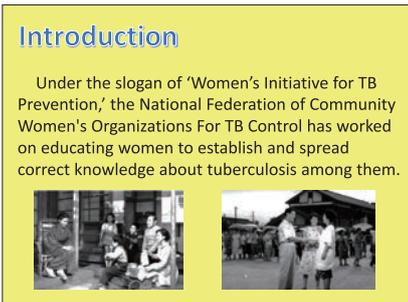


図1 「結核予防は婦人の手で」という標語のもとに結核予防婦人会が活動した様子

厚生労働省の統計資料で日本の結核罹患率の推移を調べてみると、1951年の結核罹患率は、人口10万対698.4で、これは、2015年の結核罹患率14.4の49倍です。世界保健機関（WHO）の「2016年世界結核報告」によれば、2015年時点で、カンボジアの結核罹患率は380、タイの結核罹患率は172と推定されています。1951年の日本は、これらの国の現状よりも相当厳しい状況にあったと考えられ、結核罹患率を著しく減少させるために協力されてきた方々のご努力に、改めて深い感謝の気持ちをいただきました。

木下会長は、結核予防婦人会の代表がスタディーツアーでカンボジアを訪れたこともお話しになりました。日本の婦人会の活動は、海外で結核予防に携わる人々にも、強い印象を与えているようです。

タイ・チェンライ県の女性による結核対策

シンポジウムで、タイの女性による結核対策のボランティア活動について発表された、タイのチェンライ県からいらしたLuangjinaさんは、「日本の結核予防婦人会の活動に刺激を受けた」と話されました。

ご発表の中では、ご高齢の女性ボランティアが山道を登って患者の家を訪れるというお話や、「患者の涙をふいて、患者の心に触れる」という言葉もあり、活動への熱意が心に響きました。

ボランティアが結核治療薬を1日分ずつ小分けにして包装することは、結核患者が毎日、必要な薬を間違いなく服用する大きな助

けになっているそうです（図2）。

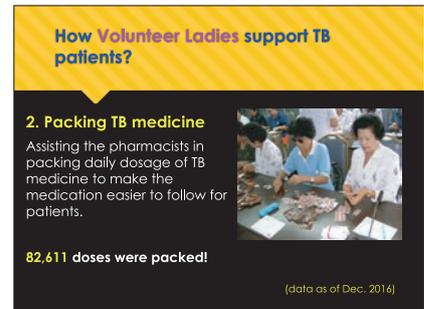


図2 タイの婦人結核ボランティアが薬を仕分けする様子

また、ボランティアの女性たちが患者の家庭を訪問することは、患者が服薬を続ける力になるとともに、患者や家族への偏見を減らすことにつながると伺いました（図3）。

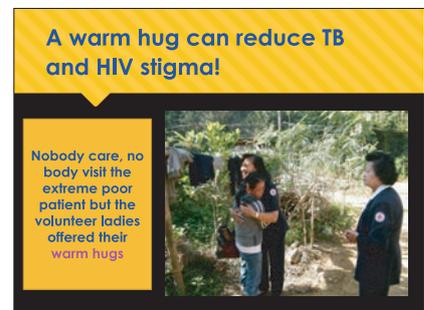


図3 タイの婦人結核ボランティアは結核患者を訪問し、暖かく抱きしめる

日本の結核予防会と結核予防婦人会の長年にわたる意義深い活動が、他の地域の結核予防活動にもつながっていることを伺い、大変うれしく思いました。

このような国際会議においてこれらの活動が、地域の人々が参加する結核対策の先駆けとして高く評価されたことをありがたく思いました。今後も日本の婦人会の支援による結核予防活動が国内外で更に発展していくことを願っております。

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会 新理事就任ご挨拶

〈理事〉
(愛知県地域婦人団体連絡協議会会長)
村上 千代子



平成29年度より理事として就任いたしました。さらに身の引き締まる思いでございます。

公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団理事長を始め、職員の方々と共に愛知県地婦連役員と一緒に、毎年副知事を表敬訪問し、複十字シール募金運動の理解と協力をお願いしています。

結核はひとつではありません。愛知県でも結核の発症が度々報告されています。なお一層私たちの結核予防普及啓発活動の輪を広げていかなければならないと感じております。

この度の理事就任にあたり、さらなる努力を心に決め、一人でも多くの方が、健康で明るい生活が過ごせることを願いつつ、活動を続けて行きたいと思っています。

引き続き、持続可能な社会づくりの促進を願っています。

〈理事〉
(京都市結核予防婦人会会長)
佐伯 久子



このたび、近畿地区の理事という重責を担うことになりました。

京都府におきましては永年、京都府の中畔都舎子前会長が全国結核予防婦人団体連絡協議会会長として重責を担ってこられました。京都市は、初めての理事就任とのこ

とです。突然のことで私には荷が重いと思っておりますが、皆様のご指導をいただきながら、任務を果たして参りたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

京都市では、社会教育関係団体として活動する中で保健衛生の取り組みとして複十字シール運動を実施しています。結核や肺ガンのない社会を目指していることを、一人でも多くの人たちに知っていただくために毎年、京都駅前において街頭啓発を実施し、それに加えて毎年結核予防会が「結核とガンを考えるつどい」を開催され、多くの会員が積極的に参加しています。今後も複十字シール運動を通して結核の征圧に向けての正しい知識を深めて、啓発活動を推進して参りたいと存じます。🐱

複十字シールの「面白い使い道」を募集

平成30年3月号(健康の輪No.122)に複十字シールの工夫を凝らした「使い道」を募集いたします。

「こんな面白い使い道があります」と、全国の「健康の輪」愛読者のみなさまに広く紹介します。

- 文章800字程度
- 写真1～2枚程度

締切は、平成30年1月5日(当会必着)です。

皆様、ふるってご投稿をお願いいたします。



シールぼうや

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12
TEL: 03-3292-9288

結核予防婦人会の 第3回全国実態調査の概要

東京家政学院大学
教授 松田 正己



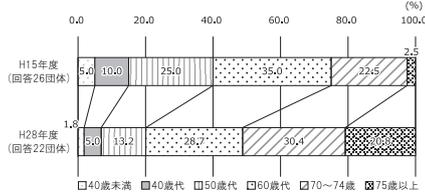
順天堂大学
保健看護学部
講師 江口 晶子



2016年10月より11月にかけて実施した結核予防婦人会の第3回全国実態調査の概要をご報告致します。この調査は1992年、2003年に続くものです。今回は、所要項目について前回の調査と比較しながら述べます。なお、調査報告書は現在、作成中であり、本年の夏に完成予定です。

1. 会員の年齢構成は、70歳以降が半分を占め、前回の調査(25%)の倍です。60歳以上の会員は前回の6割から今回は8割へと増え、50歳以下の会員は、前回の調査(40%)から、今回は20%へと半減しています。会員の年齢構成の変化は、日本全体の人口の高齢化を反映すると共に、地域社会の中で結核予防を通して社会に再び貢献する老いのあり方(老成化)を示しています。

会員の年齢構成の推移

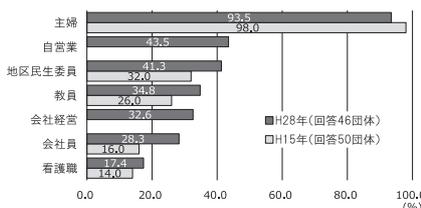


2. 幹部の職種は、前回の調査と同様に主婦が多いですが、今回は、自営業や会社経営が新たに加わっています。働いた経験を結核予防婦人会の運営

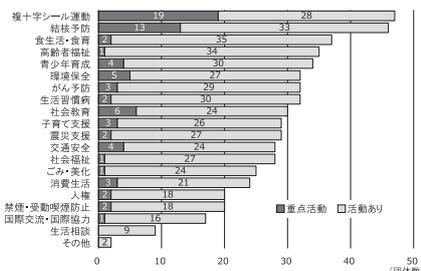
に生かす幹部が増えていることが分かります。

3. 活動領域としては、複十字シール、結核予防に加え、多様な活動領域に関与しており、1団体あたり平均で11.6(最大20)の活動を行っています。結核以外では、前回の調査(生活習慣病、食生活、環境、社会福祉、高齢者の順)に比べ、食生活・食育や高齢者福祉、青少年育成、がん予防、震災支援の活動が増えているのは、時代を反映しています。

幹部の職種(前職も含む)
(複数回答)



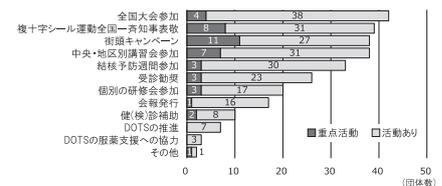
活動領域
(回答48団体・複数回答)



4. 結核予防の活動としては、1団体あたり平均で6つの活動に関与しています。前回の調査と同様に、全国大会参加、街頭

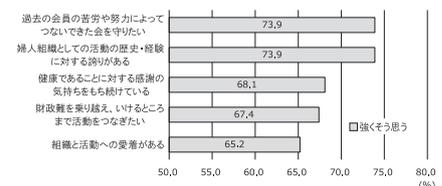
キャンペーン、講習会や予防週間への参加等が多いですが、今回は知事表敬、DOTS(の推進、服薬支援への協力)が加わっています。

結核予防活動
(回答47団体・複数回答)



5. 活動に関する思いを尋ねた27項目のうち、「強く思う」と回答した割合が高い(全体の65%を超える)のは、図に示した5項目でした。活動への誇りや愛着、責任感が、活動継続の原動力となっているようです。

活動に関する思い
(回答47団体)



(本研究は、「老成学の基盤構築」(文科省科研費・基盤B代表者: 森下直貴教授(浜松医科大学医学部・倫理学)の一部として行われています。)

報告：APRC 2017 ジョイントプログラム

シンポジウム「アジア太平洋地域の婦人会活動」

公益財団法人結核予防会募金推進部長 小林 典子

平成29年3月22日から25日の4日間、第6回国際結核肺疾患予防連合アジア太平洋地域学術大会（APRC 2017）が東京国際フォーラムにて開催されました。40年ぶりに日本で開催された結核関連の国際学会には、日本を含む42か国から815名が参加し盛会でした。大会2日目に「アジア太平洋地域における婦人会活動」をテーマにシンポジウムが行われましたので報告いたします。



左から木下会長、丸瀬理事長、Sarmwai Luangjinaさん、宮本次長、錦織先生、筆者

世界保健機関（WHO）は結核対策への地域住民の参加を重視しています。行政と地域住民の架け橋となり、結核のない世界を目指して活動を続けているわが国の全国結核予防婦人団体連絡協議会（以下、結核予防婦人会）の活動を通して、アジア地域における婦人の活動の成果と役割を明らかにすることを目的に今回のシンポジウムが企画されました。

最初の演者の木下幸子結核予防婦人会会長からは、「結核予防は婦人の手で」をスローガンに全国規模で展開してきた活動の歴史が映像とともに紹介されました。結核について正しい知識を学んだ家庭の婦人が地域の仲間に伝達し、地域の行政と連絡を取りながら結核予防の輪を広げ、その活動資金を作るために複十字シール募金運動に協力する、という一連の活動がビデオの中に凝縮されていました。

二番目の鳥取県保健事業団理事長・結核予防会事業協議会会長の丸瀬和美氏からは、結核予防婦人

会の育成と支援、複十字シール運動についてお話がありました。事業団が県や他団体に働きかけて結核予防婦人会の設立に至った経過は大変興味深いものでした。「事業団が知事をお願いしても難しいことを婦人の会会長以下役員の方々がお願いされると腰を上げてもらえる、ご婦人の力は大了ものだ」と感心しております」との言葉に会場の皆様から笑がこぼれました。

昨年3月、結核予防婦人会からの寄付をもとに、アジア諸国の当事者が「アジアの結核早期根絶戦略における住民の役割」をテーマに話し合うフォーラムが東京で開催されました。主催者の「ストップ結核パートナーシップ日本」事務局宮本彩子次長から、その会議の報告がありました。

最後の演者、タイ国結核HIV研究財団Sarmwai Luangjinaさんは、上記のフォーラムに参加された一人です。今回は、タイ・チェンライの結核HIVの婦人ボランティア活動についての報告でした。婦人

ボランティアが関わることにより多額の募金が集まったこと、結核薬を1日ごとに仕分ける作業への協力の他、山奥に住む患者を訪問し患者や家族を温かく励ます様子等が紹介されました。最後の画面に示された「婦人の手と心によって結核を撲滅しよう」は日本の結核予防婦人会のスローガンに通じるものであり、会場から温かい拍手が寄せられました。

300名が入る会場には、結核予防婦人会会員45名、結核予防会支部職員7名を含め、国内外から多くの関係者が集まりました。「世界の結核の6割が発生しているアジア地域では、日本の結核予防婦人会の活動を参考にそれぞれの国で女性団体の活動を推進していくことが大切です」という座長の錦織信幸先生（WHO西太平洋地域事務局）の言葉に会場から大きな拍手が起こりました。アジアのトップランナーとして、結核予防婦人会の益々のご活躍と発展をお祈りし、報告とさせていただきます。

受動喫煙防止のための 「敷地内全面禁煙」要望書を提出

本会は、次世代の子供達を守るために受動喫煙防止に関する法律の制定を希望してきました。厚生労働省が提案している「敷地内全面禁煙」を推進するために、東京都地域婦人団体連盟の谷茂岡正子会長をはじめ全5名が3月23日に衆参両院の議員会館の国会議員26名を訪問し、要望書を提出しました。

2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、気持ちよく全世界のお客様を迎えられるよう、世界に恥じない受動喫煙防止対策を実現しましょう。



谷茂岡会長から国会議員に要望書提出

複十字シール運動が始まります 運動期間8月1日～12月31日

今年も、公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会のご後援をいただき、8月1日から複十字シール運動が始まります。

結核の問題はまだ大きく、日本における新たな結核患者は年間約1万9千人、世界では毎日5千人近くもの人が結核で亡くなっています。

結核を中心とした胸の病気をなくして、健康で明るい社会をつくるための複十字シール運動の推進と複十字シール募金の実施にご協力をお願いいたします。

結核のない健康で明るい社会をつくるために



皆さまには、運動開始にあたって、全国知事への表敬訪問を通じて運動への協力を依頼いただいています。また、結核予防週間（9月24日～30日）にあわせて実施される「全国一斉複十字シール運動キャンペーン」におきましても、街頭募金や結核予防の呼びかけについて、引き続きご協力いただきたくお願いいたします。

公益財団法人結核予防会
募金推進部

公益社団法人全国結核予防婦人団体連絡協議会創立40周年記念
「婦人の国際会議」開催!

関係機関各位のご支援により、本会は今年で創立40周年を迎え、記念行事を開催することになりました。ご存知のように日本における結核の状況は改善していますが、世界的にみると未だ中蔓延国に甘んじています。2020年までに我が国が低蔓延国入りできるよう、結核に関する研究を推進することが「医療分野研究開発推進計画」で示されました。グローバル化が進行する現在、我が国の低蔓延化を実現するためには、近隣の高蔓延国の結核対策に対する協力・支援が重要な課題となり、日本の経験を活かした結核対策の国際協力体制をより一層強化し、画期的な技術開発にも注力していく必要があります。

日本が高蔓延を克服してきたなかでの結核予防婦人会の活動経験を活かし、開発途上国の結核対策における各国の婦人会活動を、総力を挙げて支援し、人々が健康で明るい生活を営めるよう、世界の国民運動へと発展させる会議とするべく、盛り上げていきましょう。

日 程：平成29年8月29日（火）
場 所：ホテルニューオータニ（東京都）
プログラム：（12:30開演）
オープニング
（1）開会のことば
（2）主催者あいさつ
（3）結核予防会総裁のおことば
（4）来賓祝辞

（5）特別講演
（6）国際シンポジウム
（7）閉会のことば
（16:00終了）

平成29年度複十字シールの紹介
～生き物～



今年も安野 光雅（あんの みつまさ）先生による複十字シールが出来上がりました。

童話の世界から抜け出たような個性豊かな12匹。ユーモアたっぷりの出で立ちでシールになりました。みんなの声が聞こえてくるような気がしませんか？

健康を願うメッセージが込められた複十字シールを、皆さまのアイデアで活用いただき、複十字シール運動の輪を広げてください。

公益財団法人結核予防会 募金推進部

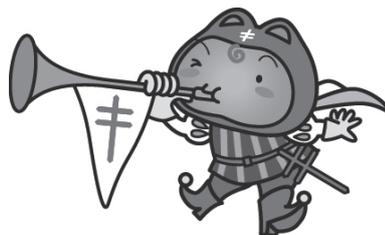


イラスト・カット募集

平成29年11月号（健康の輪 No.121）に掲載するイラスト・カットを募集いたします。

花・動物・その他、何でも結構です。

締切は、平成29年9月8日（当会必着）です。



シールぼうや

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛
〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12
TEL：03-3292-9288

編集後記

今年の複十字シールの生き物たち、その表情やしぐさがそれぞれに個性的で、眺めていて楽しいです。裏を見ますと、シール運動のはじまりや募金の使い道の説明が書かれています。シールに説明が書かれたのは初めてで、新鮮でシールへの愛着が一層高まります。手紙などにシールを貼ると、そこから生き物たち一匹一匹が主役です。「がんばってね！」と声援したくなります。 (三) 🐱

ちふれ化粧品は・・・

「誰もが手に入れやすく、安心してつかえる化粧品を。」という思いを込めて創り出した私たちの化粧品です。



ちふれが、約束すること。

- **高品質・適正価格であること。**
製造や販売にかかる余分なコストを削減して、高品質を適正な価格でお届けします。
- **無香料・無着色であること。**
肌にやさしくありたい。だから、ちふれのスキンケアはすべて無香料・無着色です。
- **全成分・分量・配合目的を公開すること。**
品質の確かさや商品の安全性だけでなく、自分の肌に合った化粧品の内容を知っていただくためにも、すべての製品の全成分・分量とその配合目的を公開しています。
- **製造年月をすべての容器に表示すること。**
誰にもわかりやすく、安心して使えるように、製造記号を製造年月で表示しています。
- **環境問題に配慮すること。**
毎日使う化粧品だからこそ、環境を大切にしたい。ちふれは、詰替化粧品や植物由来容器の導入などで、環境問題に配慮しています。



ちふれ

あなたの、健康のそばに。



大正製薬



しあわせは、明日も健康であること。

人々の健康意識を高めること、日々の生活をOTC医薬品でサポートすること。それが「セルフメディケーション」をスローガンに掲げる私たち大正製薬の使命。

OTC 医薬品のリーディングカンパニーとして、

より優れた医療用薬品の開発に力を入れるチャレンジャーとして、常に「生活者の健康でより豊かな暮らし」の実現を目指しています。